

AnthropicのClaude Scienceと科学研究AI競争

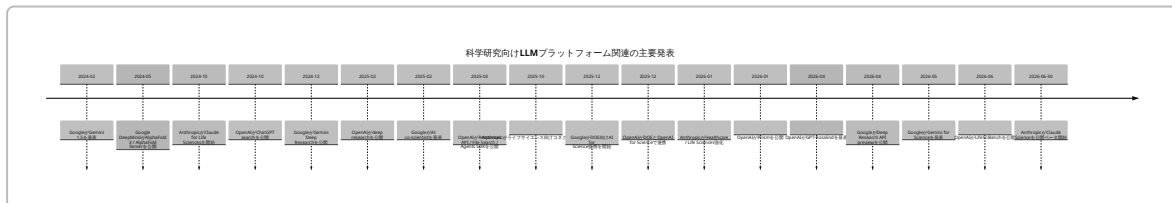
要旨

Anthropicが2026年6月30日に公開ベータとして発表した **Claude Science** は、**新しい基盤モデル**ではなく、既存のClaudeモデルの上に、**60超の科学データベース接続、専門スキル、ローカル実行、HPC連携、再現可能性の記録**を重ねた「科学研究向けワークベンチ」です。最大の差別化要因は、**ローカルファースト、研究成果物ごとの完全な provenance、レビュー用エージェント、そして SSH/Slurm/Modal を介した計算実行**までを一つの作業面に統合した点にあります。Anthropic自身も、これは「新モデルではなくアプリ」であり、価値はモデルそのものよりも**周辺の科学向け統合レイヤー**にあると明言しています。 ¹

競争環境を見ると、**Google** は Gemini Deep Research、AI co-scientist、Gemini for Science、AlphaFold/AlphaGenome といった「**汎用エージェント+特化科学モデル群**」で攻めており、政府研究機関や国家レベルの提携が厚いです。一方 **OpenAI** は deep research、Responses API、company knowledge による **横断的な調査エージェント基盤**を広げつつ、2026年には **Prism、GPT-Rosalind、OpenAI for Science**で科学ワークフローとライフサイエンスに本格参入しました。つまり、Anthropicは「研究現場の実行環境」、Googleは「科学資産の総体」、OpenAIは「クラウド型調査・執筆・専用モデル」の方向で差別化しており、競争軸はもはや純粋なモデル性能ではなく、**どこまで研究ワークフロー全体を奪えるか**に移っています。 ²

結論を先に言えば、**Anthropicは「科学者の手元の作業環境」**を取りに来た、**Googleは「科学そのものの計算資産と制度的ネットワーク」**を押さえている、**OpenAIは「調査から論文作成までのクラウド研究スタック」**を伸ばしている、という構図です。したがって、現時点での competitive dynamics は「誰が最も賢いか」ではなく、**誰が最も深く研究プロセスに入り込み、データ接続・再現性・ガバナンス・導入チャンネルを握るか**にあります。 ³

発表の流れ



このタイムラインで重要なのは、2024年末から2026年前半にかけて、3社とも「検索できるLLM」から一段進み、**科学データ・専用ツール・実験計画・執筆支援・再現性管理**までを含むプラットフォーム化に踏み込んだことです。Googleは AlphaFold と AI co-scientist を結ぶ形で科学資産を束ね、OpenAIは deep research から Prism / GPT-Rosalind へ拡張し、Anthropicは 2025年のライフサイエンス施策を土台に 2026年6月末に Claude Science を public beta として打ち出しました。 ⁴

日付	企業	発表	戦略的含意
2024年2月	Google	Gemini 1.5	MoEと長文脈で、後続の研究エージェント基盤を整備。 ⁵

日付	企業	発表	戦略的含意
2024年5月	Google	AlphaFold 3 / AlphaFold Server	科学向けの専用モデル・プラットフォーム資産を継続強化。 ⁶
2024年10月	Anthropic	Claude for Life Sciences	Benchling、PubMed、Wiley等のコネクタを先行整備。 ⁷
2024年10月	OpenAI	ChatGPT search	調査系UXの基盤を一般提供。 ⁸
2024年12月	Google	Gemini Deep Research	調査エージェントをGeminiアプリに実装。 ⁹
2025年2月	OpenAI	deep research	o3系ブラウジング最適化モデルで本格的な調査エージェントを展開。 ¹⁰
2025年2月	Google	AI co-scientist	文献要約を超えて仮説生成・研究計画に踏み込む。 ¹¹
2025年3月	OpenAI	Responses API / Agents SDK	Web search・File search・observabilityをAPI標準化。 ¹²
2025年10月	Anthropic	ライフサイエンス拡張	科学コネクタと専門サポートを増やし、縦型化を加速。 ¹³
2025年12月	Google / OpenAI	DOE連携	両社とも国家研究機関向けの科学AI配布経路を確保。 ¹⁴
2026年1月	OpenAI	Prism	論文執筆・LaTeX・共同編集を統合する科学ワークスペースを投入。 ¹⁵
2026年4月	OpenAI	GPT-Rosalind	ライフサイエンス専用モデルへ本格参入。 ¹⁶
2026年4月～5月	Google	Deep Research API / Gemini for Science	開発者向けと科学者向けの二面展開を明確化。 ¹⁷
2026年6月17日	OpenAI	LifeSciBench	現実的な生命科学タスク評価基盤を公開。 ¹⁸
2026年6月30日	Anthropic	Claude Science	研究者の手元環境・計算実行・再現性を束ねる実行系ワークベンチを投入。 ¹⁹

機能比較

本稿では、価格や契約条件が公式ソースで明確に読み取れないものは「不明」と表記します。

項目	Anthropic Claude Science	Google	OpenAI	主要根拠
統合データソース	<p>60超の科学DB / スキル / コネクタ。 UniProt、PDB、Ensembl、Reactome、ClinVar、ChEMBL、GEO、PubMed、Benchling、10x Genomics、ClinicalTrials.gov など。Open-access文献はUnpaywall / Semantic Scholar / PubMed Central 経由、必要に応じて Elsevier / Springer / EZproxy に対応。²⁰</p>	<p>公開Web + ファイル + MCP + 科学実験群。 Gemini Deep Research は Web・File Search・MCP・文書入力に対応。Gemini for Science は Literature Insights で科学文献を探索するが、統合DB数の明示は不明。²¹</p>	<p>公開Web + ファイル + 企業コネクタ + 科学プラグイン。 deep research はオンライン情報源とファイルを扱い、company knowledge は Slack / SharePoint / Google Drive / GitHub 等を横断。GPT-Rosalind 用の Life Sciences plugin は 50超の科学ツールとデータソース に接続。²²</p>	<p>Anthropic: ²⁰ Google: ²¹ OpenAI: ²²</p>
中核モデル / 能力	<p>新モデルではない。 既存Claudeモデルに科学ツール・DB接続・計算連携を重ねたアプリ。一般コーディネータ、専門エージェント、レビューエージェントで構成。²³</p>	<p>Geminiを中心に、Deep Research、AI co-scientist、AlphaFold/ AlphaGenome、NotebookLMなどを組み合わせる構成。Google自身は「狭い特化モデルではなく general agents」と位置づける一方、実際には専用科学モデル群も厚い。²⁴</p>	<p>deep research は o3系ブラウジング最適化モデル、Prism は GPT-5.2、GPT-Rosalind は ライフサイエンス専用 reasoning model。つまり OpenAI は一般調査モデルと専用科学モデルを併走させている。²⁵</p>	<p>²⁶</p>
検索 / QA	<p>自然言語で複数の科学DBと文献を横断し、矛盾点検出や仮説生成まで行う。²⁷</p>	<p>Deep Research がマルチステップ計画・探索・引用付きレポートを生成。AI co-scientist は文献サマリと実験アプローチ付き仮説を出す。²⁸</p>	<p>deep research が数百のオンライン情報源を分析・統合。company knowledge で社内アプリ横断のQ&Aを強化。²⁹</p>	<p>³⁰</p>
マルチモーダル / 科学表現	<p>3Dタンパク質構造、ゲノムブラウザトラック、化学構造、図・原稿をネイティブ表示。Python / R / shell 実行。³¹</p>	<p>Geminiはマルチモーダルで、Deep Research はチャート/ グラフを含む可視化に対応。Gemini for Science は表・レポート・スライド・音声/ 動画概要も生成。³²</p>	<p>deep research はテキスト・画像・PDFを扱い、Prismは方程式・図表・ホワイトボード図をLaTeX化。GPT-Rosalind は分子・タンパク質・遺伝子・経路推論に強い。³³</p>	<p>³⁴</p>

項目	Anthropic Claude Science	Google	OpenAI	主要根拠
API / SDK	Claude Science専用APIの公表は見当たらない。 ただし Local/ Remote MCP コネクタ、カスタムスキル、既存パイプライン接続で拡張可能。 ³⁵	Deep Researchは Interactions API専用 。MCP、File Search、background execution に対応。 ³⁶	Responses API、Web Search、File Search、Computer Use、Agents SDK、observability、remote MCP servers。 ³⁷	38
アクセス形態 / 価格	Pro \$17/年払い 換算、\$20/月払い。Max は \$100 から。Team 標準席 \$20、Premium席 \$100、Enterprise は \$20/seat + usage。Claude Science は Pro / Max / Team / Enterprise でベータ提供。 ³⁹	Geminiアプリの Deep Research は Google AI プラン系で提供、API版は preview。API費用は おおよそ \$1~\$3/タスク の目安が公式に提示。消費者向け月額の詳細は本ソース群では不明。 ⁴⁰	ChatGPT側では Free / Plus / Pro で利用枠差。Plus は \$20/月 、Pro は \$100 / \$200 。Prism は個人 ChatGPTアカウントなら無料、GPT-Rosalind は trusted access。 ⁴¹	42
コンプライアンス / 査読支援	reviewer agentが 引用・計算・図とコードの整合 を確認。注釈や原稿編集も可能。ただし 監査ログ・Compliance API は未対応 。 ⁴³	clickable citations と Literature Insights は強いが、Anthropic級の artifact-level 監査/再現ログは公表ソース上では不明。AI co-scientist は人間専門家との協働を前提。 ⁴⁴	deep research は引用付きレポート、Prism は論文執筆・引用・共同編集、company knowledge は既存権限を尊重。ただし Anthropic並みのコード実行 provenance の明示は見当たらない。 ⁴⁵	46
出典 / トレーサビリティ	最も強い 。各 artifact に Messages / Code / Execution Log / Environment / Review を保存。生成物は exact code と環境まで遡れる。 ⁴⁷	cited reports、clickable citations、private data 接続はあるが、公式説明は「引用中心」で、再現ログ中心ではない。 ⁴⁸	clear citations、sidebar で使用ソースと snippet 表示、Agents SDK の tracing。透明性は高いが、科学的実験的 provenance はまだ限定的。 ⁴⁹	50
更新 cadence	2026年6月30日 public launch、翌7月1日に 0.1.15 を出して企業プロキシと OpenAlex対応を更新。かなり速い。 ⁵¹	2024年12月初版、2026年4月にAPI preview、2026年5月に Gemini for Science。段階的に大きく拡張。 ⁵²	2024年10月 search、2025年2月 deep research、2025年3月 agent基盤、2026年に Prism / GPT-Rosalind / LifeSciBench。高頻度。 ⁵³	54

項目	Anthropic Claude Science	Google	OpenAI	主要根拠
提携 / エコシステム	NVIDIA BioNeMo、Benchling、10x Genomics、BioRender、Wiley、Sanofi、Broad、Evinova、Schrödinger 等。学術・非営利ラボ向け割引もある。 ⁵⁵	DOE、UK政府、韓国政府、インドANRF など大規模制度連携が強い。AlphaFold/AlphaGenome/WeatherNext まで含む総合科学エコシステム。 ⁵⁶	Amgen、Moderna、Allen Institute、Thermo Fisher、Benchling、UCSF 等。学術側では NextGenAI、国家機関側では DOE と OpenAI for Science。 ⁵⁷	58

技術評価

Anthropicの技術的な賭けは、「科学向けに学習し直した単独モデル」よりも、「既存LLMを科学環境に埋め込む **orchestration layer**」にあります。公式FAQは Claude Science を「新モデルではない」と明示し、価値の中心を **科学DB接続、計算実行、専門エージェント、provenance 管理** に置いています。これは、研究現場ではモデルの知識量よりも、**データに触れ、コードを走らせ、何をどう実行したかを再現できる**ことが重要だという設計思想です。Sci-RAGというより、**tool-augmented, agentic RAG** に近い構造で、専門エージェントがデータソースを問い合わせ、一般コーディネータがまとめ、reviewer が検証する三層構造になっています。⁵⁹

この点で Anthropic の grounding / provenance は、3社の中で最も**研究監査に寄せた設計**です。Artifact ごとに **Message、Code、Execution Log、Environment、Review** を保存し、図を作れば「その図を生んだコードと環境」まで戻れます。さらに reviewer agent が **不正確な引用、追跡不能な数値、図とコードの不整合** を表面化前に検出・修正するため、単なる引用付き回答よりも一段深い再現性を志向しています。Google と OpenAI も引用や tracing を強化していますが、公開ソース上では Anthropic ほど artifact 単位の検証履歴を前面に出していません。⁶⁰

Googleのアプローチは、Anthropicよりも**分散的で資産厚め**です。Gemini Deep Research は cited reports、MCP、File Search、文書理解を備えた汎用調査エージェントであり、AI co-scientist はさらにその上に **仮説生成と研究計画** を置きます。加えて AlphaFold、AlphaGenome、AlphaEvolve などの**専用科学モデル**があるため、Googleの強みは「一つの科学ワークベンチ」よりも、**汎用エージェントが多様な科学専用システムを呼び出せる生態系**にあります。Google自身も「狭い特化モデルではなく、分野横断の general agents」を掲げつつ、実際には AlphaFold のような特化資産を Gemini の周辺に束ねています。⁶¹

OpenAIの設計は、Anthropicより**クラウド中心**、Googleより**調査と執筆の一体化**に寄っています。deep research は browsing 用データセットで訓練され、Web / 画像 / PDF / Python を統合する一方、Responses API と Agents SDK が **web search、file search、computer use、tracing** を標準部品として提供します。2026年には Prism が **LaTeX-native の論文ワークスペース**として加わり、さらに GPT-Rosalind が **ライフサイエンス専用モデル** として投入されました。つまり OpenAI は、一般の research agent と、科学専用モデル/専用UI を **モジュール別に積み増す戦略** を採っています。⁶²

限界とリスクも明確です。Anthropicでは、**ローカルファースト**であっても、モデルに送られる prompt / completion は Anthropic 側で通常ポリシーに従って保持され、さらに **監査ログや Compliance API がまだ未対応**です。文献取得は entitlement-aware で、**paywall bypass は行わず、paywalled HTML もスクレイプしない**点はIP/法務面では堅いものの、エンタープライズ統制はベータ段階です。⁶³

Googleでは、AI co-scientist の公開説明自体が**Trusted Tester Program** 前提であり、Gemini for Science も **Google Labs の実験**として段階公開です。AI co-scientist の人手評価は好成績ですが、Google自身が **sample size was small** と認めており、科学的創発性の評価はまだ初期段階です。つまり Google は能力の幅では最も野心的ですが、一般利用可能な科学プラットフォームとしては現時点でも一部が preview / prototype のままです。 ⁶⁴

OpenAIでは、system card が **prompt injection** の残余リスク、**bias**、**hallucination** を明示し、deep research の Preparedness 評価も CBRN / cyber / persuasion / autonomy で **medium** を付けています。特に browsing 系モデルは、引用を付けても **検索先自体が悪性指示を含む**場合があり、OpenAI も「現実の攻撃は評価セットより高度であり得る」と書いています。したがって、OpenAIの強みは breadth と developer ergonomics にある一方、**高リスク科学用途では trusted access や評価ベンチの併用が事実上前提**です。 ⁶⁵

市場と競争戦略

Anthropicの Claude Science は、ターゲットがかなり明確です。対象は **研究者、バイオインフォマティクス、創薬、臨床・規制、学術ラボ**で、GTM は **既存Claude有料プランへのバンドルと研究ラボ向け Team 割引**の組み合わせです。しかも Anthropic は自前で追加クラウド計算を売るのではなく、Modalや既存HPCを使わせ、「**モデル利用料は取るが、計算は顧客持ち**」に寄せています。これは GPU キャパを自社で抱えずに、より規制の厳しい顧客のデータ主権要求にも応えやすい戦略です。ライフサイエンス向けの Benchling、Wiley、BioRender、10x Genomics、NVIDIA との連携は、この垂直統合を補強しています。 ⁶⁶

Googleの市場戦略は、Anthropicよりも**二層構造**です。一方で Gemini app / Google AI plans / Gemini API で広い開発者と一般ユーザーを取り込み、他方で DOE、英国、韓国、インドの研究・政策プレイヤーと組んで、**国家・公的研究基盤に食い込む**。さらに AlphaFold、AlphaGenome、WeatherNext のような強い科学資産をバンドルできるため、Googleは単なる LLM 企業ではなく **AI for Science の総合供給者**として振る舞えます。この意味で Anthropic の相手は Gemini アプリだけではなく、**Google Cloud + DeepMind 研究資産 + 公的提携ネットワーク** 全体です。 ⁶⁷

OpenAIの市場戦略は、さらに**層が厚い水平展開**です。deep research は一般知識労働者向け、Responses API は開発者向け、company knowledge は企業内ナレッジ横断向け、Prism は研究執筆向け、GPT-Rosalind はライフサイエンス研究チーム向け、NextGenAI は学術機関向け、OpenAI for Science は国立研究所・高性能計算向け、という多層構造です。Anthropicが「研究者の手元」で差別化し、Googleが「科学資産」で差別化するのに対し、OpenAIは **research stack の全レイヤーに API と製品を敷く**やり方です。monetization も subscription、enterprise、API、trusted access の混合で、最も多面的です。 ⁶⁸

競争ダイナミクスを整理すると、現時点の構図は次のようになります。**Anthropicは「研究を実行する机」を売っている、Googleは「科学を前進させる研究資産の束」を売っている、OpenAIは「調査・執筆・専用モデルをクラウドで繋いだ研究OS」を作っている**。したがって Anthropic の Claude Science は、Google を「AlphaFold 競合」として、OpenAI を「deep research 競合」として個別に見るより、**二社が持つ強みの隙間を埋める中間地帯を狙っている**と見るのが正確です。Claude Science は AlphaFold のような単一科学モデルではないが、OpenAI deep research より現場実行に深く、Google Gemini for Science よりすぐ使える単一作業面に近い。これは非常に実務的なポジショニングです。 ⁶⁹

規制・ガバナンス面では、AnthropicとOpenAIはいずれも**生物学領域の高リスク性**を強く意識しています。Anthropicは paywall bypass 不可やベータ管理制限の明示があり、FT は trusted access program を生物用途にも拡張する方向を報じています。OpenAIは deep research の system card で CBRN や prompt injection を正面から扱い、GPT-Rosalind も trusted access です。Googleは各国 AI Safety Institute や政府との協働を太くしており、規制耐性を制度面から積み上げています。商用化の進展ほど、**モデル能力そのものよりアクセス制御・監査・権利処理・安全保障配慮**が競争力になる局面です。 ⁷⁰

専門家コメントと報道反応

Anthropic側の一次ソースでは、**Benchling** が「AI in R&D works through an ecosystem」と述べ、Anthropicの強みを **access / governance / interoperability** を優先しつつ**最良技術を束ねる点**に置いていきます。**Broad Institute** は、Claude ベースのエージェントが科学者に「これまで不可能だった規模と効率」をもたらすと評価し、**Evinova** は「2030年の臨床試験はAIによって設計される」とまで踏み込んでいます。つまりパートナーの反応から見ても、Claude Science は単なる検索ツールではなく、**ワークフロー再設計**の文脈で売られています。 ⁷¹

Googleの一次ソースでは、AI co-scientist の開発陣が、これは standard な literature review や deep research を越えて **novel hypotheses and research proposals** を狙うと説明しています。また Google は Gemini for Science で「新しい発見の時代は narrow models ではなく general agents から来る」と述べています。これは Anthropic の「研究ワークベンチ」路線に対して、Googleが **科学的創造性そのもの**を競争軸に置いていることを示します。 ⁷²

OpenAIの一次ソースでは、**Amgen** が GPT-Rosalind について「life sciences の質問は複雑でデータも固有性が高く、stakes が高い」としたうえで、OpenAIとの協業が薬を患者に届ける速度を加速し得ると評価しています。OpenAI自身も deep research を「science, policy, engineering」の intensive knowledge work 向けと位置づけ、Prism では日常の研究執筆フローの摩擦低減を前面に出しました。すなわち OpenAI は「研究アイデア」だけでなく、**研究成果物の完成までをAIで短縮する**と語っています。 ⁷³

業界報道では、**Reuters** は Claude Science を Anthropic の broader life sciences / healthcare push の一環と捉え、**FT** はさらに踏み込んで「**pharma revenue push**」、そして IPO を意識した enterprise expansion と位置づけました。日本語報道では **技術評論社gihyo.jp** が、Claude・科学DB・解析ツール・計算環境を束ねた **macOS/Linux向けデスクトップアプリ** と整理しています。報道トーンを総合すると、市場は Claude Science を「モデル競争の新ラウンド」よりも、**AI企業が医薬・研究予算を取りに行く vertical software 競争の本格化**として受け止めています。 ⁷⁴

参考文献

- Anthropic, **Claude Science, an AI workbench for scientists.** ⁷⁵
- Anthropic, **Claude Science beta** と関連ドキュメント (Artifacts / Tools and environments / Literature access / Changelog / Legal and compliance) 。 ⁷⁶
- Anthropic, **Claude for Life Sciences / Claude for Life Science Teams** / 日本語ライフサイエンスページ。 ⁷⁷
- Google, **Gemini Deep Research / AI co-scientist / Gemini for Science / AlphaFold.** ⁷⁸
- Google, **Gemini Deep Research Agent (Interactions API)** と関連 MCP / File Search ドキュメント。 ³⁶
- OpenAI, **introducing deep research / Deep Research system card / new tools for building agents.** ⁷⁹
- OpenAI, **Prism / GPT-Rosalind / LifeSciBench / OpenAI for Science / NextGenAI.** ⁸⁰
- Reuters, **Anthropic unveils 'Claude Science' for scientific research.** ⁸¹
- Financial Times, **Anthropic launches Claude Science in push for pharma revenue.** ⁸²
- 技術評論社gihyo.jp, **Anthropic、AIで科学研究を支援する作業環境「Claude Science」をパブリックベータで公開.** ⁸³

🔗navlist🔗関連ニュース🔗turn37news26,turn37news27,turn37news28🔗

- 1 3 23 26 59 69 76 **Claude Science beta | Claude by Anthropic**
<https://claude.com/product/claude-science>
- 2 17 21 32 36 48 61 **Gemini Deep Research Agent | Gemini API | Google AI for Developers**
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/deep-research>
- 4 5 **次世代モデル、Gemini 1.5 を発表**
https://blog.google/intl/ja-jp/company-news/technology/gemini-model-february-2024-jp/?utm_source=chatgpt.com
- 6 **AlphaFold — Google DeepMind**
<https://deepmind.google/science/alphafold/>
- 7 58 71 **Claude for Life Sciences \ Anthropic**
<https://www.anthropic.com/news/claude-for-life-sciences>
- 8 **Introducing ChatGPT search | OpenAI**
<https://openai.com/index/introducing-chatgpt-search/>
- 9 28 52 78 **Gemini: Try Deep Research and Gemini 2.0 Flash Experimental**
<https://blog.google/products-and-platforms/products/gemini/google-gemini-deep-research/>
- 10 22 25 29 45 68 79 **Introducing deep research | OpenAI**
<https://openai.com/index/introducing-deep-research/>
- 11 24 64 72 **Accelerating scientific breakthroughs with an AI co-scientist**
<https://research.google/blog/accelerating-scientific-breakthroughs-with-an-ai-co-scientist>
- 12 37 **New tools for building agents | OpenAI**
<https://openai.com/index/new-tools-for-building-agents/>
- 13 77 **Claude for Life Sciences**
https://www.anthropic.com/news/claude-for-life-sciences?utm_source=chatgpt.com
- 14 56 **Google DeepMind & DOE Partner on Genesis: AI for Science — Google DeepMind**
<https://deepmind.google/blog/google-deepmind-supports-us-department-of-energy-on-genesis/>
- 15 80 **Introducing Prism | OpenAI**
<https://openai.com/index/introducing-prism/>
- 16 57 73 **Introducing GPT-Rosalind for life sciences research | OpenAI**
<https://openai.com/index/introducing-gpt-rosalind/>
- 18 **Introducing LifeSciBench | OpenAI**
<https://openai.com/index/introducing-life-sci-bench/>
- 19 51 54 **Claude Science changelog - Claude.ai Documentation**
<https://claude.com/docs/claude-science/changelog>
- 20 27 30 31 34 43 46 55 75 **Claude Science, an AI workbench for scientists \ Anthropic**
<https://www.anthropic.com/news/claude-science-ai-workbench>
- 33 65 **Deep research System Card | OpenAI**
<https://openai.com/index/deep-research-system-card/>
- 35 38 **Custom connectors - Claude.ai Documentation**
<https://claude.com/docs/claude-science/custom-connectors>
- 39 42 **Plans & Pricing | Claude by Anthropic**
<https://claude.com/pricing>

- 40 Google AI Pro & Ultra — get access to Gemini 3.1 Pro & more
https://gemini.google.com/veo?utm_source=chatgpt.com
- 41 What is ChatGPT Plus? | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/6950777-what-is-chatgpt-plus>
- 44 New AI Tools for the Future of Science
<https://blog.google/innovation-and-ai/technology/research/gemini-for-science-io-2026/>
- 47 50 60 Artifacts - Claude.ai Documentation
<https://claude.com/docs/claude-science/artifacts>
- 49 Work smarter with your company knowledge in ChatGPT | OpenAI
<https://openai.com/index/introducing-company-knowledge/>
- 53 ChatGPT search が登場 - OpenAI
https://openai.com/ja-JP/index/introducing-chatgpt-search/?utm_source=chatgpt.com
- 62 Deep Research System Card - OpenAI Deployment Safety Hub
<https://deploymentsafety.openai.com/deep-research>
- 63 How Claude Science works with your data - Claude.ai Documentation
<https://claude.com/docs/claude-science/how-claude-science-works-with-your-data>
- 66 Claude Team plan for research labs | Claude by Anthropic
<https://claude.com/programs/claude-team-plan-for-research-labs>
- 67 Google AI plans with Cloud Storage - Google One
<https://one.google.com/about/google-ai-plans/>
- 70 Literature access - Claude.ai Documentation
<https://claude.com/docs/claude-science/literature-access>
- 74 81 Anthropic unveils 'Claude Science' for scientific research
https://www.reuters.com/science/anthropic-unveils-claude-science-ai-platform-scientific-research-2026-06-30/?utm_source=chatgpt.com
- 82 Anthropic launches Claude Science in push for pharma revenue
https://www.ft.com/content/50c10721-bda6-439e-a6c3-755311e4b505?utm_source=chatgpt.com
- 83 Anthropic、AIで科学研究を支援する作業環境「Claude ...
https://gihyo.jp/article/2026/07/claude-science?utm_source=chatgpt.com